

平成27年度 邇摩高等学校学校評価(内部評価:教員評価)

大項目	担当部署	重点目標(中項目)	具体的施策(小項目)	評価指標	項目番号	アンケート項目	評価			成果と課題	改善策・向上策
							評価点	教員	外部		
特色ある学校づくり	総務部	特色ある学校づくり	・地域社会との連携を図り、本校に対する理解を深め、特色ある学校づくりに取り組む。	・邇摩高フェア年間3回実施する。 ・アンバサダー事業を推進する。	1	・邇摩高フェアの開催に向けて、生徒自ら取り組むことができましたか。	83.9	A	A	系列主任の先生方をはじめ、多くの先生方のご協力により年3回実施することができた。生徒が自らフェアを開催するという気持ちを持ち実施できたことは、フェア開催初年度としては、成果があったと感じている。しかし、会社組織として設立したファイブスターカンパニーが機能していない部分もあり、次回の課題である。	週2時間の「銀の哲学B」を有効に活用し、生徒代表である代表取締役を中心とした系列代表者会議、担当部署会議など定期的に諸会議を開催し、フェア全体に向けて話し合う機会を設ける。
		PTA活動の充実及び諸会合の円滑な運営	・総会・役員会・評議員会・学年会等で保護者との一層の連携に心がける。 ・広報、行事案内等、保護者への情報提供に努める。	・PTA総会の保護者出席率30%以上を目指す。 ・百合樹を年間2回発行する。 ・邇摩高通信を月1回発行する。 ・メール配信システムを有効活用する。	2	・アンバサダー事業を推進することができましたか。	58.8	C		昨年度の実施校は4校であったが、今年度は、現在、福祉系列による中学校訪問(車いす体験、高齢者模擬体験)の1校である。近隣小中学校への案内が年度当初のみで、その後の情報提供ができなかった。	HPや邇摩高通信などを利用し、情報提供に努める。各系列が実施できる内容を事例として一覧にまとめ、校内外に情報発信する。オープンキャンパスとは別に、中学校単位での授業参観、体験の機会も設ける。
					3		80.0	A	A	総会を3年生保護者同伴進路説明会と併せて実施したため、出席率は昨年度を大きく上回ることができたが、日程的に窮屈になり多方面にご迷惑をかけた。評議員会では、様々な意見交換ができ、保護者の疑問に対する情報を提供できた。会長様のご支援により多くの方々へ体育祭、文化祭にご協力をいただき、学校、保護者との距離感が縮まった。	総会の出席率は積年の課題であるが、マンネリ化することなく、保護者が出席したくなる、しやすい総会を開催できるようにさらに検討していきたい。評議員会では、まだまだ活発な意見交換ができるよう会のあり方について検討していきたい。
学習指導・教育課程	教務部	授業の充実	・よりわかりやすい授業を目指し、授業改善に努める。	・アンケート(年度末評価、授業アンケート)で肯定的意見を教職員、生徒とも70%以上を達成する。	4	・見通しが持てる授業、ICT機器を利用したよりわかりやすい授業を工夫し、実践することができましたか。	61.9	C	B	今年度、ユニバーサルデザインについての校内研修を複数回実施し、本格的な実施に向けて動き出すことができた、ICT機器の活用についてはまだ十分とは言えないが、昨年と比較すると利用の頻度は高まってきた。	ユニバーサルデザインについて本校で共通のルールを設定することが必要でありそれについて各教科の意見をまとめ確定していく、ICTの活用については引き続き研究をすすめる年度を追うことに活用頻度が高くなるようにしていく。
		中高連携の強化	・中高間の授業公開、研究授業に参加し、授業力向上に努める	・アンケート(年度末評価)で肯定的意見を教職員60%以上を達成する。	5	・中学校、高校の研究授業、公開授業に参加し、授業力の向上に努めましたか。	48.7	D	B	ICT機器を活用した授業研究を推進してきたがまだ十分とは言えず、来年度も引き続き研究していく必要がある。また、中高連携の機会も十分に活用されているとはいえず、来年度は近隣の中学校と協同した授業研究が本格的に行えるよう環境整備をしていく必要がある。	高校における「アクティブラーニング」充実への動きが急速に進んできており、グループ学習や探究的な学習を積み重ねてきた小中学校との連携が求められている現状を踏まえ、積極的に連携が行えるような場面設定(時期・場所・対象となる教科、内容等)を設ける。
生徒指導	生徒指導部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・規範意識の向上と、挨拶・服装髪指導の充実を図る	・朝の登校指導、放課後の邇摩駅付近の巡視を実施し、アンケートで肯定的意見70%以上を達成する。	6	・生徒の基本的な生活習慣は、向上しましたか。	60.0	C	B	スマホ・交通・防犯・薬物乱用・鍵かけ等の教室や講和を実施し予防に努めた。身だしなみ検査及び再検査、月間、登校指導の実施を試みた。スマホのトラブルが若干、身だしなみについては、常習化している生徒が見受けられた。その他、今年度は、怠学・無断アルバイトが目立った。	予防策として、引き続き外部機関による講和・教室を考慮する。身だしなみについては、目につく生徒を即座に指導できる体制、粘り強く指導を実施していくようにする。無断アルバイト等外部機関が絡むものについては、足を運び説明と協力依頼をしていく。
		自己実現に取り組む態度の育成	・場にふさわしい振舞・言葉遣いとコミュニケーション能力を培う	・アンケートで肯定的意見70%以上を達成する。	7	・生徒のマナー・言葉遣い・コミュニケーション能力は向上しましたか。	49.4	D	B	不登校生徒・目的意識の薄い生徒への指導を適宜実施した。生徒マナー等については、各職員室の出入りを中心に成果の跡が見られる。言葉遣いについては、その都度やり直しをさせるなど指導しているが、けじめのつかない部分も見受けられる。	怠学など、本人はもとより、保護者との連携を密にし、解決にこぎつけた。マナー面については、違和感を感じたところで都度、粘り強く対応していくことが必要である。
進路指導・キャリア教育	進路指導部	キャリア教育の推進	・キャリア教育事業を全校に周知する ・キャリア教育事業における外部との連携を強化する ・キャリア教育事業への保護者参加を促進する	①実施事業(学年ごと)に対する教員参加率50%以上 ②外部と関わる事業を学年ごとに年間5回以上 ③保護者の参加率(全学年)40%以上	8	・教員から見てキャリア教育の推進が図れていましたか?	75.2	B	B	外部と関わる事業の回数は目標を上回ったが、参加率については数値目標に達しておらず、周知の必要がある。関連するアンケート結果では肯定的意見が昨年並みか増加しており、特に生徒と教員は8割超で、参加されていない保護者や先生方からも一定の評価は得られたと考える。参加を促す工夫は必要である。	進路事業のスリム化に伴い、実施意義を考慮した時期と回数提案していき、そのためには学年会や他分掌との連携が必須であり、実施計画前、実施直前等に十分な話し合いの機会を設定したい。早期からの立案と進路指導部内での十分な検討も必要であり、その上で参加を促す工夫を考えていきたい。連携強化のため授業時間内に定例の分掌会や学年会の設定を望む。
		進路情報発信の充実	・「進路だより」を活用する ・進路書棚・進路委員を活用する ・キャリア教育事業のマスコミへの情報を発信する	・「進路便り」の月2回以上の発行 ・進路書棚の点検を月に1回、進路委員活動を月に2回行う ・マスコミへ遅くとも1週間前に周知	9	・進路からの情報は生徒や教員の役に立ちましたか?	78.8	B	B	進路便りの発行数は目標に達しておらず、進路委員の活動回数も不十分であった。しかし、関連するアンケートでは生徒と教員で肯定的意見が8割超であり、準備した情報には満足していたのではないかと考える。今年度は、進路希望調査の時期と活用について、学年会の意向を伺いながら実施できた点を評価していきたいと考える。	回数重視ではなく無理のない目標設定を考慮し、少ない回数で充実した内容を目指したい。年度当初に、年間の「発行日・活動内容と担当者」の設定をし、内容の向上と目標達成を目指したい。一方、進路希望調査についても学年会と連携を図り、結果の迅速な返却と活用を目標としたい。マスコミや保護者への周知についても年度当初の確認で徹底したい。
教育保健・相談	保健部	相談活動の充実	・連携をはかりきめ細やかな相談体制を整える ・カウンセリング委員会を活用する ・特別支援教育の推進を図る	アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	10	・カウンセリング委員会等を通して教職員間の連携が図れましたか?	72.6	B	B	定期的な同委員会を開くことで、教育的支援が必要な生徒を早めに把握し、共通理解を持って支援や連携を図ることができた。	肯定的評価をいただいているが、よりよい連携を図り生徒や保護者への支援を充実させていく。
		学習環境の美化と施設保全	・清掃指導の徹底と環境美化への意識を向上させる ・年2回の安全点検を実施する	アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	11	・日々の清掃や安全点検が、学習環境を整えることに役立ちましたか?	68.7	B	B	教員、生徒、保護者の肯定的評価が60%は越えており清掃はほぼ行き届き学習環境も整えることができた。	さらに、ゴミの分別を徹底させることや身の回りの整理整頓をするよう全校で取り組んでいきたい。
施設設備	図書部	図書館活用教育の推進	・探求型学習、調査研究のできる図書館づくりに努める。 ・新着図書・推薦図書・新聞記事等を紹介し、活字に親しむ意欲を喚起する。	・年内図書館利用授業時間200時間以上の達成 ・年内生徒平均貸出冊数5冊以上の達成	12	・教職員は図書館を利用できましたか?	55.7	C	B	・教職員の図書館利用は、特定の教科や先生が繰り返し利用される傾向がみられる。より広く、より多くの教職員が利用しやすい環境を工夫していく必要がある。	・新教育課程の探求型学習、言語活動の充実が求められるが、それら意識的に取り組む必要がある。また、アクティブラーニングの流れも組みながら、新着図書や新聞記事、利用方法、指導方法等の具体的例をあげながら啓発していきたい。
		人権・同和教育活動の推進	・人権・同和教育研修を有効なものにする。人権・同和教育LHRをより生徒にとって有効なものに工夫する。	・アンケートで肯定的意見を教職員70%以上、生徒60%以上を達成する。	13	・人権・同和教育研修は役立ちましたか?	54.4	C	B	・人権・同和教育研修会が1月26日にあり、学校評価の後だったことが、評価を低くしている。今回の研修のアンケートをきちんとまとめた。	・研修会をしてアンケートを積極的にとり、その内容を謙虚に受け止めていきたい。特別支援教育の分かる授業の取り組みが人権・同和教育への深まりと連動できるように工夫していきたい。
舎務部	舎務部	学習時間を有効活用	・定期試験期間中の学習時間の確保を徹底させる。	・寮生はどの科目の成績も6割以上を達成する。	15	・寮生は真面目に学習に取り組み、良好な成績を修めましたか?	76.3	B	A	・今年度はLHRの取り組みが意識的に早く各担任の先生方は積極的に事前準備に参加していただいた。生徒理解も深まったと思う。が、まだ遅い指摘があった。 ・LHR事後アンケートの指摘もあった。更に各回準備して意見を尊重して取り組んでいきたい。	・LHRへの取り組みを充実したものにならなければならない。①早目の取り組み ②毎回事後アンケートを取り、誠実に意見を取り上げることが大切と思う。特別支援教育との連携は、上記と同様に取り組むたい。
		規律ある生活習慣の確立	・基本的な生活習慣(挨拶・礼儀・感謝)の育成を図り、遅刻や欠席が無いよう健康管理にも気をつけさせる。	・健康管理が万全で、遅刻・欠席0を達成する。	16	・寮生の健康管理は万全でしたか?	85.0	A	A	定期試験期間中の学習状況は良好であるが、集中してできない者もいる。学習成績として、40点前後の科目を有している者もいるので、素素の学習時間を少しでも確保できることが課題である。	素素の学習時間(1時間)を確保できるように粘り強く取り組ませたい。また、学習することの意義をさらに高めていきたい。

総合	1年学年会	基本的生活習慣の確立	・不規則な生活による遅刻・早退・欠席がないように指導する	・学年だよりを毎月1回発行して、不規則な生活にならないように啓発する。	17	・倦怠感がなく澁刺と学校生活を送っていると思いますか。	69.7	B	B	不規則な生活による遅刻・早退・欠席がないよう担任を中心に指導し、ほとんどの生徒が倦怠感なく澁刺と学校生活を送っていた。特に学年球技大会など生徒主体で計画し競技を盛り上げることができた。この元気・エネルギーを学習に結びつけていくのが課題である。	決まった数名の生徒が遅刻や欠席を繰り返しているので、朝礼時全員の顔が揃うように当該生徒への健康管理の指導に重きをおく。
		基本的な学習態度と学習規律の育成	・授業開始の時間厳守など学習環境を整える	・成績不振者を出さない(全員が平均点5.0点以上を目指す)	18	・授業内容について話し合ったり、質問もし易い雰囲気のクラスであったと思いますか。	63.0	C	B	一年間よく授業に集中し頑張った成績向上に努めた生徒はいるが、学年全体としては学習面については年度当初期待していたほどの成果は見られなかった。定期試験において欠点も多く平均点もかんばしくなかった。高校の授業内容は当然難しいので、授業で理解し、せめて家庭で復習するようになるのが課題である。	授業開始時、休憩時間からのけじめがつかない生徒がいる。すでに全教員で努めていることではあるが、始業のチャイムとともに授業を開始し、できればチャイムが鳴る前に席に着いて待機するような授業への緊張感を与えていくことが改善策・向上策と考える。
	2年学年会	基本的生活習慣の定着	・挨拶や言葉づかい、端正な身だしなみが身につくよう指導する。	・アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	19	・挨拶や、場にふさわしい言葉づかい・身なりができていますか	63.1	C	B	教職員アンケートでは肯定的評価が58%にとどまっているのに対し、生徒による自己評価では、Q2の「ルールやマナーを守る態度が身につけているか」に87%の肯定的自己評価、またQ7「学校では服装・遅刻指導がきちんとされている」に80%の肯定的評価がある。この大きなギャップは、教職員が生徒に求める基準が、生徒に正確に伝わっていないことを示している。	来年度はいよいよ最上級学年となる。高校卒業の資格を得て、社会に出る、あるいは上級学校へ進む者として要求される「挨拶・言葉遣い・服装」の基準の厳しさを、生徒に伝わるように具体的に示し続けること・またそれが実現されているかどうかの評価の形を、各分掌や系列との連携の中で工夫し、日々実践していく努力が必要である。
		進路実現に必要な知識・技術の習得	・進路設計の授業・インターンシップ等を通して、職業観・進路意識を深めさせる。	・インターンシップ事後アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	20	・インターンシップは、生徒が進路を考えていく上で有意義なものとなりましたか	79.4	B	B	事後アンケートでは、「楽しかった」「充実感を味わった」という肯定的意見が96%、また、進路を考えていく上で「参考になった」「ある程度参考になった」との肯定的評価が98%にのぼり、おおいに有意義な3日間であったといえる。	進路設計の中で、インターンシップ関連の授業は14時間も計画されており、更にその間を縫って、その授業の準備や後処理のために非常に多くの時間と手間を割かなければ、生徒全員に指導を行き渡らせることは不可能である。進路の主担当の先生は、学年会や、事業所ごとの担当教員それぞれと連絡調整をされるのが本場で大変であったと感謝申し上げる。更に校内の連携を密にし、生徒の実態に応じた臨機応変な対応が円滑に行えることを通して、更に完成度の高い事業にしていけることが望まれる。
	3年学年会	社会人に求められる生活習慣の確立	・挨拶・言葉づかい・身だしなみなどに気を配り、社会人としての基盤が身につくように指導をする。	・アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	21	・社会人になることを意識した挨拶・言葉づかい・身なりなどが身についていますか。	58.1	C	B	身なりについては、大きな崩れはないが、化粧・頭髪・スカート丈などに違反がみられた。特に、化粧・スカート丈については、身なり指導以外の場面で違反があり、継続的な指導ができなかった。進路決定後の身なり・礼法・言葉遣い等についてもより一層の指導が必要であった。	進学・就職指導中の身なり・礼法等は良かったので、進路決定後の指導に力を注ぐ必要がある。また、系列・教科担当の先生方とも連携し、平素から多くの場面で指導できる体制をつくるようにしたい。
		生徒の能力・適正に応じた進路指導の徹底、個々の希望に応じた進路目標の達成	・面談を通し生徒理解を深め、さらに家庭との連携を密にし、個々に応じた進路指導を充実する。	・アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	22	・個々に応じた進路目標を達成することができましたか。	82.0	A	A	担任を中心とした学年部・進路指導部・家庭と連携を取りながら生徒個々の希望・適性・能力に応じた進路決定がほぼ達成できた。思うように進路が決定しなかった生徒に対しても担任・進路指導部が粘り強く対応できた。	今年度と同様に、学年部・進路指導部と連携を取りながら生徒の希望に沿った進路決定がほぼ達成できた。思うように進路が決定しなかった生徒に対しても担任・進路指導部が粘り強く対応できた。
特色ある学校づくり	文化	授業力の向上 生徒の進路実現に必要な基本的学習内容の定着	・教員間の情報交換を密にし、また授業公開等の機会を活用して、授業力の向上を図る。	・アンケートで肯定的意見80%以上を達成する。	23	・生徒の基本的学習内容の定着に向け、ご自身の授業力の向上に努めることができましたか。	62.9	C	B	文化系列の教員間の連携を密にすることにより、生徒の基本的学習内容の定着に向け、文化系列の教員の授業力の向上に努めることができたと思う。	文化系列の教員間の連携をより密にし、授業の取組をより創意・工夫することにより、文化系列の教員の授業力をより向上させることができると思う。
	生活	系列の専門性の向上	・資格取得をめざし、知識・技術を着実に定着させる。 ・外部講師や地域の施設団体と連携した活動を実施する。	・各検定2・3級は全員合格、1級は8割合格を達成する。 ・各コースで外部講師や地域施設団体と連携した活動を1回以上行う	24	・各検定合格者数の達成や地域と連携した授業により、系列生徒の意識の高まりが見られましたか	83.3	A	A	生徒は検定前向きに努力する姿勢が見られた。合格数については、一部達成できなかった種目があったため、教材研究にさらに力を注ぎ合格率アップを目指したい。保育実習や地域の料理コンテストへの応募、課題研究など、地域と連携した授業が実施でき、生徒の意識は高まった。	実物見本やICTの活用など、生徒の技術理解・定着を助ける教材研究を進める。筆記試験対策を強化する。保育コースの生徒も連携し、平素から多くの場面で指導できるように、地域での学びを地域に還元するような活動を広げる。
		系列の特色を地域に発信	・学校行事の中で授業作品展示や販売を実施させる	・進摩高フェアや文化祭でコースの特色を生かした作品展示コーナーや販売を実施する。	25	・進摩高フェアや文化祭での展示・販売を通じ、生活系列の特色をアピールできましたか。	79.3	B	A	「フェア販売のための商品作り」から「授業内容を生かした商品作り・展示発表」と内容を充実させることができた。文化祭・フェアとも昨年度とは異なる企画や展示を増やすことができた。	今年度の新しい企画の反省をもとに、授業に関連付けた展示発表の充実と地域のニーズに合った販売を行う。
	福祉	地元の社会福祉関連の職業に従事する人材の育成	・地元の福祉施設と連携した福祉教育を図る	・年3回、地元の福祉施設職員に介護技術を教わる機会を設定する ・年2回、地域に出かけてボランティア活動をする	26	・地元の福祉関連の職業を目指した進路に全体の30%以上進みましたか。	72.9	B	B	福祉関連の職業に進んだ生徒は全体の37%であった。進学校卒業後も地元で定着するほどの高い意思を持ち続けるための継続的なフォローをどうやっていくかが今後の課題である。	・早い段階で地元の福祉諸課題に直面させ、自ら解決しようとする態度の育成を図る。 ・地元の福祉施設と生徒が関わる機会を増やし、地元で共に貢献したいという郷土愛を育てる。
	ビジネス	自ら学ぶ姿勢の育成	・自己目標とその目標達成のための努力項目を明確にさせ、その実現のために、一人一人にきめ細かい指導を行う。	・自己目標達成度80%以上	27	・自己目標を達成するために努力し、達成できましたか。	81.5	A	A	フェアの準備等で全体指導の機会が少なかったが、個々の目標は違うためその分、個別支援は充実できた。2年生では、全体指導におけるきめ細かい指導が不足し、理解度の違いに大きな開きが出てしまった。	フェアの準備等でなかなか全体通した指導が難しいが、その分、生徒自身が自分の進路や個々の能力を考えた自己目標の設定ができるよう指導していく。その上で、個を意識した指導をする。また、検定だけでなく、フェアの取り組みなど様々な場面での自己肯定感を育成する指導が必要である。
		地元経済の発展に貢献できる人材の育成 ビジネスにおける基本的技術・知識の習得	・販売実習等を通して、ビジネスに必要な基本的マナーを習得するとともに、顧客満足実現のためにどのようなことが必要であるか考えさせる機会を設ける。	・各販売実習における来場者アンケートの評価が肯定的意見80%以上	28	・販売実習において、ビジネスマナーを意識しお客様のことを考え行動し、満足していただける接客ができましたか。	82.9	A	A	地域の声を反映して「餅」の販売など実施することができた。昨年度以上に生徒自身が主体となって積極的に取り組むことができた。フェア全体の来場者数の増加、お客様にも喜んでもらえた。販売マナー、衛生面、レジシステムなどの販売方法などに関してもっと工夫が必要である。	ビジネス系列がリーダーとして、全体を引っ張られるように指導していきたい。そのために、まず、ビジネスマナーの徹底、起業家精神・マーケティング力等の育成を行ったうえで、レジシステムや販売方法などの基本的技術の習得を行ってほしい。
	農業	農業クラブの活性化	・地域交流活動をおこない日頃の学習成果が発揮できる場面を設定する。 ・各種競技会の指導を充実させる。	・地域交流活動を年間3回以上開催する。 ・各種競技会での上位入賞	29	・地域交流活動は以前よりも活発におこなわれ、各種競技会で生徒は活躍したと思いますか。	86.9	A	A	農業クラブを中心に地域交流活動を昨年度よりも多く開催した。この活動を通して生徒の自主性やコミュニケーション能力が向上しつつある。競技会においては、県大会の優秀賞止まりであった。しかし、生徒は以前よりも意識を高く持ち取り組んでいた。	来年度は地域交流活動を更に進め、回数を増やしていく。また、地域が要望されている交流内容などに柔軟に対応できるよう農業クラブの改革にも取り組んでいく。競技会は、更に指導体制を充実させ、県大会最優秀賞を目指して指導していく。
		農業系列の地域への情報発信	・農業系列の取り組み内容を進摩高フェアや文化祭などで紹介する。	・進摩高フェアなどで地域への情報発信を毎回行う。	30	・進摩高フェアなどで農業系列の特色や取り組みがアピールできていましたか。	86.4	A	A	進摩高フェアや文化祭で農業系列の取り組み内容や農業クラブの活動などをパネル展示した。地域の方々にはよく見ておられ、取り組み内容について声をかけられる場面が多かった。しかしパネルの質と展示内容の工夫が必要である。	来年度もパネル展示を続けて行く。しかし、パネルの内容は、課題研究の内容や普段の生徒の実習風景、農業クラブの活動など見て楽しめるものに変えていく。また今年度同様にホームページへの掲載も引き続き行っていく。

【算出方法】

5:とてもあてはまる(5点) 4:概ねあてはまる(4点) 3:あまりあてはまらない(2点)
2:あてはまらない(1点) 1:わからない(カウントなし) とし、「1」と答えた人以外の人数の合計点と回答人数によって算出した。
計算式=《合計点数÷人数》で平均値を出し、20倍したものを達成度評価値(%)とした。

【評価基準】

A:達成できた(100~80) B:概ね達成できた(79~65) C:あまり達成できなかった(64~50)
D:達成できなかった(50~0)